

東京医科歯科大学医学部附属病院の理念と基本方針

- 理念：安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院
- 目標：1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 国民のニーズに応える開かれた病院

医療連携支援センター TEL: 03-5803-4655 (地域連携室) FAX: 03-5803-0119



医療連携だより

石井 登 (いしい のぼる)
医療連携支援センター 患者相談室

今まで培って来た経験を生かし、皆様のお役に立てるようがんばりますので、よろしくお願いします。

大木 康子 (おおき やすこ)
医療支援課 医療福祉支援係

皆様が気持ちよく病院をご利用できるように努めますのでよろしくお願いいたします。

丸山 愛 (まるやま あい)
医療連携支援センター 医療福祉支援室

至らない所はしっかり学び、患者さんや皆様のお役に立てるよう、がんばります。

高藤 舞 (たかふじ まい)
医療支援課 地域連携係

初めての病院勤務ですが、わかりやすい説明を心がけて精一杯がんばります。よろしくお願いいたします。

連携支援センターの新メンバーご挨拶

医療連携支援センターで働く7人の新しいメンバーを紹介します。今後ともよろしくお願いいたします。

田口 絵里子 (たぐち えりこ)
医療支援課 地域連携係

病院は初めてなので、早く慣れて皆様のお役に立てるようがんばります。

小澤 恵美子 (おざわ えみこ)
医療連携支援センター 患者相談室 副看護師長

今までとは全く異なる環境で、心機一転、他職種の方々と刺激しあっていきたいと思えます。

畠山 光喜 (はたけやま こうき)
医療連携支援センター事務室長

医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務といった多職種による当センター内の、チームワークの強化を図り、患者さんの気持ちに寄り添った対応を心がけます。

H28.7現在

医療機関からの初診事前予約について ぜひご利用ください

お問い合わせ先 03-5803-4655 (地域連携室)

FAX 予約の場合
FAX : 03-5803-0119
(受付時間 8:30 ~ 16:00)

上記番号に、紹介状・申込書を送信してください。速やかに当院よりFAXで「外来診療予約票」を返信します。

*土日祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)、および受診日当日の予約は受け付けておりません。また、翌日分の予約は14時までとなっております。
*時間外・休日などのお申し込み分は翌診療日にご連絡させていただきます。(FAX 受診は24時間可能)

電話予約の場合
TEL : 03-5803-4655
(受付時間 8:30 ~ 16:00)

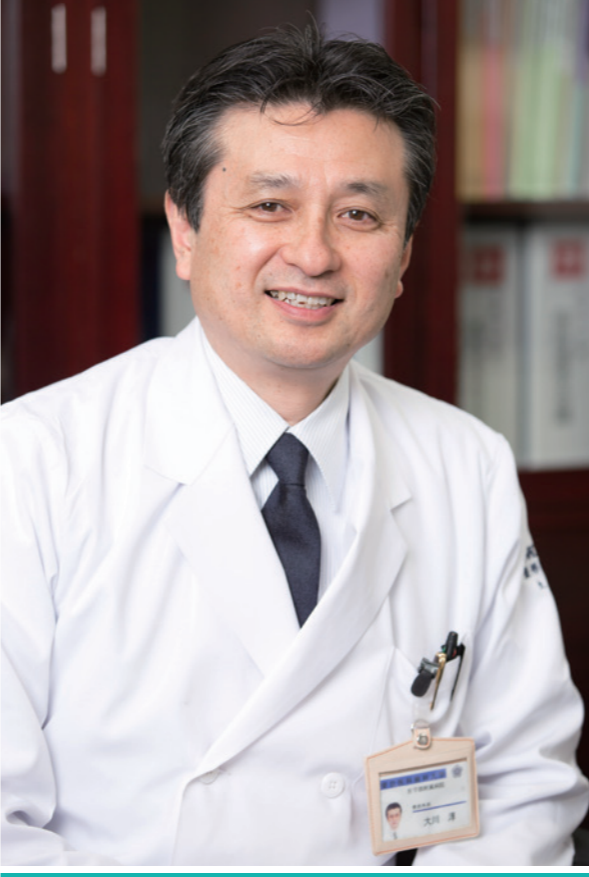
上記番号に、電話をおかけください。その際に患者さんの氏名・生年月日・希望診療科名・予約希望日をお知らせください。

メールマガジンにご登録ください! 医療連携支援センターでは、メールマガジンを発行しております。当院ホームページより医療連携支援センターにアクセスし、オレンジ色の「メルマガ申込」からご登録ください。



東京医科歯科大学医学部附属病院 医療連携だより 12号 (平成28年9月発行)
発行 〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45 東京医科歯科大学医学部附属病院医療連携支援センター TEL:03-5803-4655 FAX:03-5803-0119
<http://www.tmd.ac.jp/renkei/>

本書の無断複製(コピー)は著作権法上の例外を除き、禁じられています。



ご挨拶

当院を支えてくださる医療機関の皆様とのチームワークを育みながら世界トップレベルの医療を提供します

東京医科歯科大学医学部附属病院 病院長
大川 淳 (おおかわ あつし)

4月より、病院長を拝命いたしました。専門は整形外科で脊椎脊髄外科、つまり首から腰までの背骨の病気の治療や研究を続けてまいりました。

前任の木原和徳病院長が取り組んできた患者さんサービスや病院経営を引き継ぎ、安心安全で、レベルの高い医療を提供することで、地域の人々の健康長寿に貢献します。

学生時代から20年以上も本院を見つめ続けておりますが、堅実で真摯、そして高い技術力を持つ医師やスタッフが多く、それをよく理解して患者さんをご紹介くださる医療関係者の皆様や、受診してファンになってくださる患者さんもたくさんご利用されていることが、何よりも大切な本院の宝だと考えております。

都心、首都圏の人々の健康を守りつつ、難病治療や先進医療で、日本、そして世界トップレベルの医療を引き続き提供するためには、地域の医療機関の皆様とのチームワークなくして成り立ちません。ぜひ、人々の「心のオアシス」となる病院づくりにご協力ください。

TOPICS 1
救急プライオリティーコールを開設

多様化する緊急度の高い疾患に対して、高い技術とチーム医療の円滑な提供を目指し、近隣地域の医療機関の皆様とより密接な連携を構築するために、救命救急センター医師を窓口とする「救急プライオリティーコール」を開設いたしました。※詳細は別添の「連携NEWS」をご覧ください

24時間体制でER医師が直接お電話にてお伺いします



TOPICS 2
当院カルテの閲覧が可能

地域連携システムを利用して、当院にご紹介いただいた患者さんの外来、入院カルテをインターネットを通じて閲覧することが可能になりました。※詳細は別添の「カルテ閲覧のご案内」をご覧ください



医療連携支援センターの役割

- 紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- 医療機関からの初診事前予約受付
- 入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- その他の医療・福祉相談

DIRECTOR Director 病院長対談

大川
新病院長

大川 淳
Atsushi Okawa

整形外科・
病院長（平成28年4月～）



1982年東京医科歯科大学医学部卒業。九段坂病院、諏訪中央病院などで勤務後、2001年より東京医科歯科大学医学部整形外科講師。2011年より教授に就任。2016年4月より病院長。専門は脊椎脊髄外科。難易度の高い脊椎疾患で豊富な治療実績を持つ。

木原和徳 Kazunori Kihara
泌尿器科・
前病院長（平成26年4月～平成28年3月）

木原
前病院長

木原 「防災対策、災害医療は、地域病院の協力が重要」

大川 「入退院をスムーズに行える体制づくりを構築したい」

大川 木原先生は2年間という限られた病院長の任期の中で、患者さんへのサービス向上と、地域の連携病院との連携強化に努めていらっしゃいましたね。そのお陰で、地域の医療機関からの紹介や逆紹介の手続きが大変にスムーズになりました。ありがとうございました。

木原 病院長時代は、いろいろな人の意見に耳を傾け、それをもとにどうすれば病院を改善できるかを考え、実現に努めました。大川先生も、「入退院センター」設置の準備や、「緩和ケア病棟」の開設準備など、積極的に新しい取り組みに挑んでいますね。

大川 大学病院と地域の連携病院との役割分担を進めることで、より多くの患者さんに、大学病院が持つ質の高い先進医療や難病治療、さらには救急医療をはじめとする急性期医療を提供する必要を強く感じています。

そのためには、急性期の治療をひとまず終えた患者さんに、地域の医療機関をご紹介して、患者さんのご希望やライフスタイルに合わせて、無理のない慢性期治療を行えるように、大学病院側と地域の医療機関が力を合わせて患者さんをサポートする必要があります。

木原 大川先生は、整形外科が専門なので、リハビリテーションを始めとする慢性期治療の重要性をよくご存知ですから、特に入退院で治療期間の空白や時間のロスがないようにと、配慮されているんですね。

大川 木原病院長の時代に準備していただいた「長寿健康人生推進センター」や「脳卒中センター」も、問題なく稼働し始めました。

特に「長寿健康人生推進センター」は、社会やマスコミの関心も高く、法人契約などの話も進みつつあります。

通常の健康診断に加えて、がん検診、さらには当大学の強味でもある歯学部との協力で歯科ドック、さらには他に類を見ない「健康管理ゲノム情報」という、がんや生活習慣病などの病気に罹りやすい体質かどうかを調べ、病気の予防に役立てる先制医療も提供できるセンターを設置できました。

木原 私も病院長を退任後は、患者さんと医療制度の双方に負担の少ない手術を実現するため、さらには若い医師たちにも、私の技術や思いを理解してもらうために、引き続き、研究と臨床の現場でがんばっています。自分の本業に集中できる時間が増えたので、少しホッとしています。

大川 平成28年3月には、「全国救命救急センター評価（平成27年度）」において、当院の救命救急センターが、全国266カ所の救命救急センター中、総合評価で全国第1位と発表されました。この栄誉に甘んずることなく、大都市東京と首都圏の人々の健康長寿を支えるために、病院スタッフが一丸となって精進していきます。

木原 よろしくお願ひします。防災対策や災害医療に関しては、地域の病院や医療スタッフの協力体制の構築が第一ですから、ぜひ医療連携の強化を進めてください。さらに2020年には、オリンピックも開催されますから、当院の強味の1つである、「スポーツ医学」の研究成果をアスリートさらには臨床現場に活かして、ひいては健康寿命の延伸にも貢献して欲しいですね。

大川 貴重なアドバイスを、ありがとうございました。

新任の副病院長・病院長補佐のご紹介

副病院長



内田 信一 新任
Shinichi Uchida
医療安全・臨床研究担当、腎臓内科



川崎 つま子 新任
Tsumako Kawasaki
サービス・環境整備担当、看護部

河野 辰幸 Tatsuyuki Kawano・手術・先進医療担当、食道外科

下門 顕太郎 Kentaro Shimokado・診療・地域医療担当、老年病内科

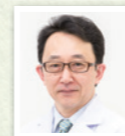
病院長補佐



荒井 裕国 新任
Hirokuni Arai
診療整備・外科担当、心臓血管外科、MEセンター



高橋 弘充 新任
Hiromitsu Takahashi
コスメティカル担当、薬剤部



伏見 清秀 新任
Kiyohide Fushimi
医療国際化・QMC担当、クオリティ・マネジメント・センター



吉村 亮一 新任
Ryoichi Yoshimura
BCP担当、放射線治療科、放射線部

磯部 光章 Mitsuki Isobe・診療整備・内科担当、循環器内科

榎田 浩史 Koshi Makita・麻酔・ICU担当、麻酔・蘇生・ペインクリニック科

高橋 誠 Makoto Takahashi・研修教育担当、総合教育研修センター

大友 康裕 Yasuhiro Ootomo・危機管理担当、救命救急センター

藍 真澄 Masumi Ai・診療報酬担当、保険医療管理部

泉山 肇 Hajime Izumiyama・医療連携担当、医療連携支援センター

小池 竜司 Ryuji Koike・安全管理・臨床研究担当、膠原病・リウマチ内科

尾林 聡 Satoshi Obayashi・安全管理・診療担当、周産・女性診療科

吉原 澄吉 Sumiyoshi Yoshihara・経営改善担当、事務部長

石田 達樹 Tatsuki Ishida・経営改善担当、特任講師

2016年4月から小児外科を再開しました



小児外科 診療科長

岡本 健太郎
Kentaro Okamoto
大学院 総合外科学分野 講師

9年前に医科歯科の小児外科で勤務して以来、栃木県の獨協医科大学で小児外科・新生児外科医として腕を磨いてきました。約1000件の小児・新生児の手術経験を積み、このたび、医科歯科の小児外科の立ち上げに戻って参りました。小児・新生児の外科的疾患に対し、患者さんやご家族の視点から最適な治療を選択しつつ、専門医として責任を持って保存的・手術的治療を行います。手術の際には整容性に充分配慮した低侵襲治療を心がけています。手術の整容性に関しては、腹腔鏡で補助しながら臍に隠れる創で手術を行う、経済的手術を積極的に行っております。

小児科・新生児科と、外来のブース・入院の病棟を共にし、綿密でスムーズな連携を持ちながら包括的な治療を行っております。

鼠径ヘルニア（陰嚢水腫）、停留（移動性）精巣、臍ヘルニアなど、小児外科分野としてよくみる疾患に加え、便秘に関しても漢方治療も併用しながら治療しておりますので、ご相談して頂けると幸いです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

